

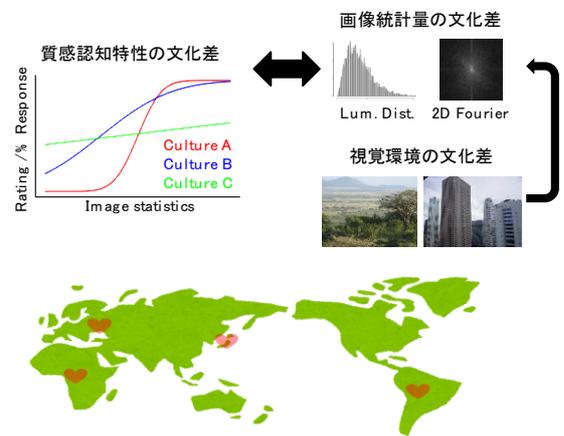
公募研究 D01-5

## 質感認知の異文化比較研究

研究代表者 高橋 康介 (中京大学心理学部・准教授)



「ものの質感の情報は、ものと環境と観察者の相互作用が生み出す感覚信号の複雑な変調のパターンの中に含まれる(西田)」—文化が異なれば環境は異なり、従って相互作用のあり方も異なります。質感認知がこれら相互作用の結果として生じるものならば、文化は質感認知の規定因となり得ます。質感の情報及びその認知過程は生まれ育つ環境によらず人類共通であるのか、それとも視覚環境が我々の質感認知をはぐくむものなのか。本研究計画ではアフリカ・南米・ヨーロッパ・日本などの多地域間でヒトの質感認知特性を比較し、その通文化性及び文化依存性を検証するとともに、各地域での視覚環境を収集・解析して認知特性との関係を調べることで、生まれ育った地域や文化の視覚環境が質感認知にどの程度、どのように寄与しているのか解明します。



公募研究 D01-6

## 身体や情動に訴えかけるセンシユアルな音響質感メディアの研究

研究代表者 仲谷 正史 (北海道大学電子科学研究所・学術研究員)



本研究は聴覚における質感について検討します。聴覚において質感をあたえる音響信号の1つとして、ASMR音源と呼ばれる刺激を利用します。ASMRとは、自発的に官能的な感覚をもたらす反応(Autonomous Sensory Meridian Response)と呼ばれる現象で、この音響信号を聴くと鳥肌が立つという生理応答が見られたり、「リラックスする」という主観評価がこれまでに報告されています。この現象は、音楽を聴取している際に生じる深い感動にも似ていますが、ASMR現象が音楽聴取の場合と同じメカニズムで生理応答や知覚を生じさせているのかどうかについては明らかではありません。このような現状を鑑み、本研究ではASMR音源を網羅的に集め、その音源の特徴を解析しながら、聴覚刺激がもたらす質感情報について検討を進めてゆきます。

